

# きらめき朝日

令和8年3月10日号

校長 横井 真人



## 1年間のご支援とご協力に 感謝申し上げます

3月13日の修了式、3月14日の卒業式をもって、本年度の登校日が終了します。今年も1年間ご支援ご協力ありがとうございました。

今年は前回の学校便りでお伝えしたとおり、受験制度も変わり、何か落ち着かないところがありますが、時はしっかりと巡ってきます。大事な節目の日をしっかりと自分の体に刻んでほしいものです。

さて、いよいよ、3月14日は3年生にとって晴れの舞台です。卒業生の保護者の皆様には、成長してたくましくなった、頼りがいのある子どもたちの姿をぜひ実感してもらえたらと思います。

あらためまして、今年度も、総合的な学習の時間を中心に、保護者の皆様、地域の方々にも多大なるご協力をいただきました。この場をお借りして、感謝申し上げます。朝日中の取り組みは、新聞やテレビの報道を通して、県内はもとより、全国に報道されています。堂々と胸をはって来年も進んでいきます。

来年度も朝日中の生徒が今年に勝る活躍の1年間になることを期待しています。

## 来年度も学校教育目標を継続します。 目標が達成され、教育活動にさらに深まりが加えられるよう努力します。

令和8年度朝日町立朝日中学校学校教育目標

ふるさとを<sup>あい</sup>愛し <sup>さち</sup>幸求め <sup>ひた</sup>直向きに生き抜く

あ

さ

ひ

朝日中生の育成」

朝日中生を幸せにする7つの力〈育成を目指す資質・能力〉

- (1) 自らの生き方、将来を考える力
- (2) 地域を大切に思い、貢献する態度
- (3) 主体的に行動する力

- (4) 目標に向かい粘り強く取り組む力
- (5) 他者と協働し課題解決する力
- (6) 思いや考えを伝える力
- (7) 情報を収集し活用する力

令和7年度は、学校教育目標の「直向きに」の部分を「見える学力の向上」ととらえ、学力向上に取り組んでまいりました。子どもたちの主体的な学びの姿勢と全職員の意欲的な支援により、明らかに「見える学力」の数値は上昇しました。この取り組みを進めながら、研修会の中で振り返りを行って、途中経過を確かめながらここまでやってきました。「学力」とは①知識・技能②思考力・判断力・表現力③学びに向かう力(主体性)を総合した力を言います。「見える学力」は上記①と②の部分的なものでしかなく、いわゆるテスト等の結果を指しているものです。もちろん、数値に表せない「見えない学力」の方が「生き方」にとっては大切なものですが、今年をあえて「見える学力」の向上にこだわりました。

来年度も今年度と同様に「見える学力」の向上を目指します。学習における主体性がこれからも継続すれば、それが雰囲気となり校風となります。そしてその校風は簡単には崩れません。学校で一番多く時間が割かれているのは教科の授業ですので、授業によい意味で校風が影響するようになれば、「見える学力」は高いところで定着できるようになります。そのためには時間が必要です。もう1年、この取り組みに挑戦し、朝日中の学びの向上につなげていきたいと思えます。

~~~~ 校長の独り言 ~~~~

世の中が多様化し、いろいろな考えが認められるようになりました。反面、それによって、一生懸命に何かをやったり、自分の意見を積極的に主張することが何か悪いことのように聞こえてしまう時代にもなっていました。

我々がまだ20代だった頃、栄養ドリンクのCMには「♪黄色と黒は勇気のしるし 24時間戦えますか ビジネスマ〜ン ビジネスマ〜ン ♪」という歌が流れていました。「ビジネスマンは24時間働きなさい」という主旨です。今と非常に矛盾しています。私たちの世代が若い頃は辛いことが当たり前で、苦勞をしながらそれを乗り越えて力をつけていく、これが社会の常識だったと思えます。

しかし時は流れて、社会の価値観は変化しました。1人ひとりが力をつける時代から、みんなでみんなの力をつけていく時代が変わったように思います。しかし、人が社会で一生を全うするには「生きる力」が必要です。どうあっても自分が生き抜くためには、この力が必要なのです。だから辛いことや悲しいこと、厳しいことも見方を変えれば自分を支える力になる、そういう考え方もあっていいのかな、と思うときもあります。今は、時代が求めるものが昔と変わりました。それは仕方ありません。ただ、人を育てるための本質的なところは本当は変わってはいけないのではないかという思いにかられるときもあります。昔の時代を生き抜いた我々の世代と違い、今の若い世代・子どもたちは、私たちが昔耐えてきたことに耐えられるだろうかと不安に思えます。社会はそれを十分理解しなければならないと思うのです。これからの社会の発展を支えていくのは相当大変なことであると思えますが、それでも常に前に進めるよう準備を怠らざにいたいと思う今日この頃です。